

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme

【エクストリームプレス】

PRESS by AJPS

「極
め
る」

1

Vol.

2011. Spring



無料

『Extreme Press』創刊にあたり

1976年6月、志を同じくする仲間16名が「日本スポーツプレス協会(AJPS)」を任意団体として設立しました。そして昨年5月「一般社団法人日本スポーツプレス協会」を設立登記するに至りました。現在、ライター43名、

フォトグラファー118名、会員総数161名の協会です。

今回、賛助会員であるサンディスク株式会社の協力を得て季刊誌『Extreme Press』を創刊できることは、アスリートの躍動を記録する私達にとって大きな喜びです。記録性にとらわれず、作品性の高い写真と文章で人々に感動を与えられたらと考えています。

CONTENTS

巻頭エッセイ vol.1

3 「究極」が見たくて 戸塚 啓 写真/赤木真二

「極める」 Moments



表紙／井上六郎

アテネ五輪の余韻が残る10月の日曜日。4年後の北京をめざして行われたタイム計測だけの記録会。平日は授業と訓練に追われる選手の卵たち。国を代表する名誉をかけた「1000m タイムトライアル」。1分強の闘いに己の四肢をパンクのライン上で極める。

■撮影データ:2004年10月17日
/日本競輪学校
■カメラ:Nikon D2H
■レンズ:Nikkor 70-200mmF2.8
■撮影モード:M 1/640 F11 ISO200
■WB:晴天
■メディア:サンディスク ウルトラII CFカード

4-5



三船貴光

灼熱のバンコク。ユニバーシアード夏季大会男子砲丸投げ。スコットランドで生まれ、第1回近代オリンピックから行われたこの競技。7.26 kgの鉄球に想いを込め、出来る限り遠くへ投げる。

■撮影データ:2007年8月12日/バンコク(タイ)
■カメラ:Canon 1D Mark III ■レンズ:EF400mmF2.8
■撮影モード:M 1/2500 F5.0 ISO250
■WB:Auto ■メディア:サンディスク エクストリームIII CFカード

6-7



薬師洋行

シドニー五輪から正式種目になったシンクロナイズド・ダイビング。2人がペアで演技し、その演技の完成度、同調性を採点して順位を争う。10mの高さから水面まで3秒弱、その間の回転、ひねり、入水に集中する。

■撮影:2008年8月11日/北京(中国) /男子シンクロナイズド・ダイビング
■カメラ:Olympus E-3 ■レンズ:ED90-250mmF2.8
■撮影モード:M 1/640 F2.8 ISO800
■WB:Auto ■メディア:サンディスク エクストリームIII CFカード

8-9



泉 悟朗

トライアスロン世界選手権シリーズ最終戦。トライアスロンは泳ぎ、自転車をこぎ、そして走る。いかに強靭に鍛えられた肉体と、突き刺すような強い日差しの中で欲しいのは潤いだ。

■撮影データ:2009年9月13日/ゴールドコースト(オーストラリア)
■カメラ:Nikon D3 ■レンズ:Nikkor 70-200mmF2.8+EXI.4
■撮影モード:シャッター優先 1/800 F5.6 ISO200
■WB:Auto ■メディア:サンディスク エクストリームIII CFカード

Impression

10-11



澤田仁典

“次世代規格”的驚異的なスペック
「サンディスク エクストリーム プロ SDHC UHS-Iカード」の可能性を探る
爽やかに晴れた日曜日。自らの限界に挑戦する市民ランナー。
42.195kmへの熱い思いを、最先端のSDカードで写しとめた。

「究極」が見たくて

我々の営みは、痛みに満ちている。

職場で、学校で、家庭で。ひょっとしたら、不特定多数の人が集まる公共の場所でも。小さなため息さえ無言の圧力となり、我々は無意識のうちに誰かを傷つけ、自らも心に傷を負っている。いさかいは絶えることがない。

スタジアムに、心をえぐる刃はない。氷の上にも、雪の上にも。

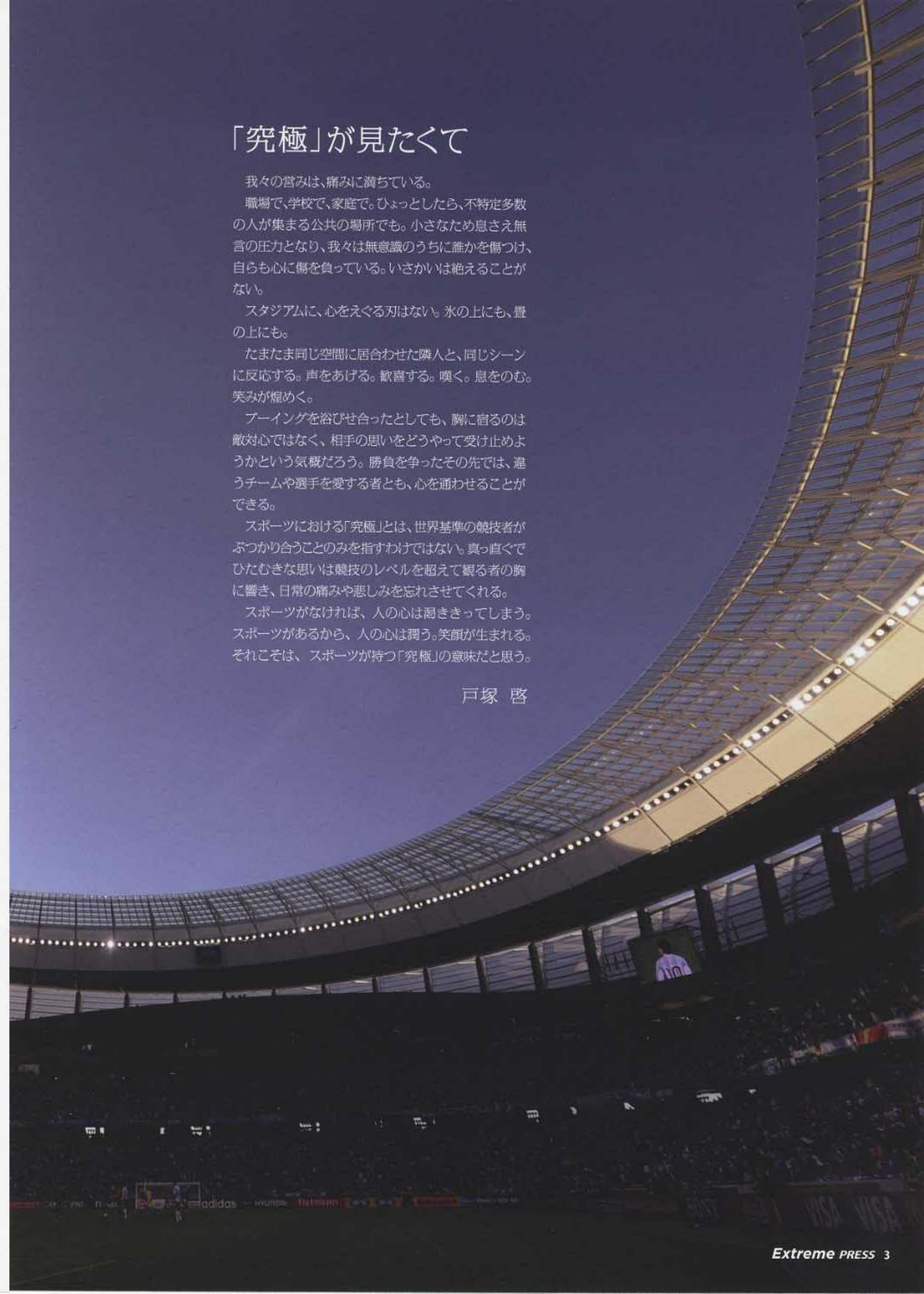
たまたま同じ空間に居合わせた隣人と、同じシーンに反応する。声をあげる。歓喜する。嘆く。息をのむ。笑みが糧めく。

ブーリングを浴びせ合ったとしても、胸に宿るのは敵対心ではなく、相手の思いをどうやって受け止めようかという気概だろう。勝負を争ったその先では、違うチームや選手を愛する者とも、心を通わせることができる。

スポーツにおける「究極」とは、世界基準の競技者がぶつかり合うことのみを指すわけではない。真っ直ぐでひたむきな思いは競技のレベルを超えて観る者の胸に響き、日常の痛みや悲しみを忘れさせてくれる。

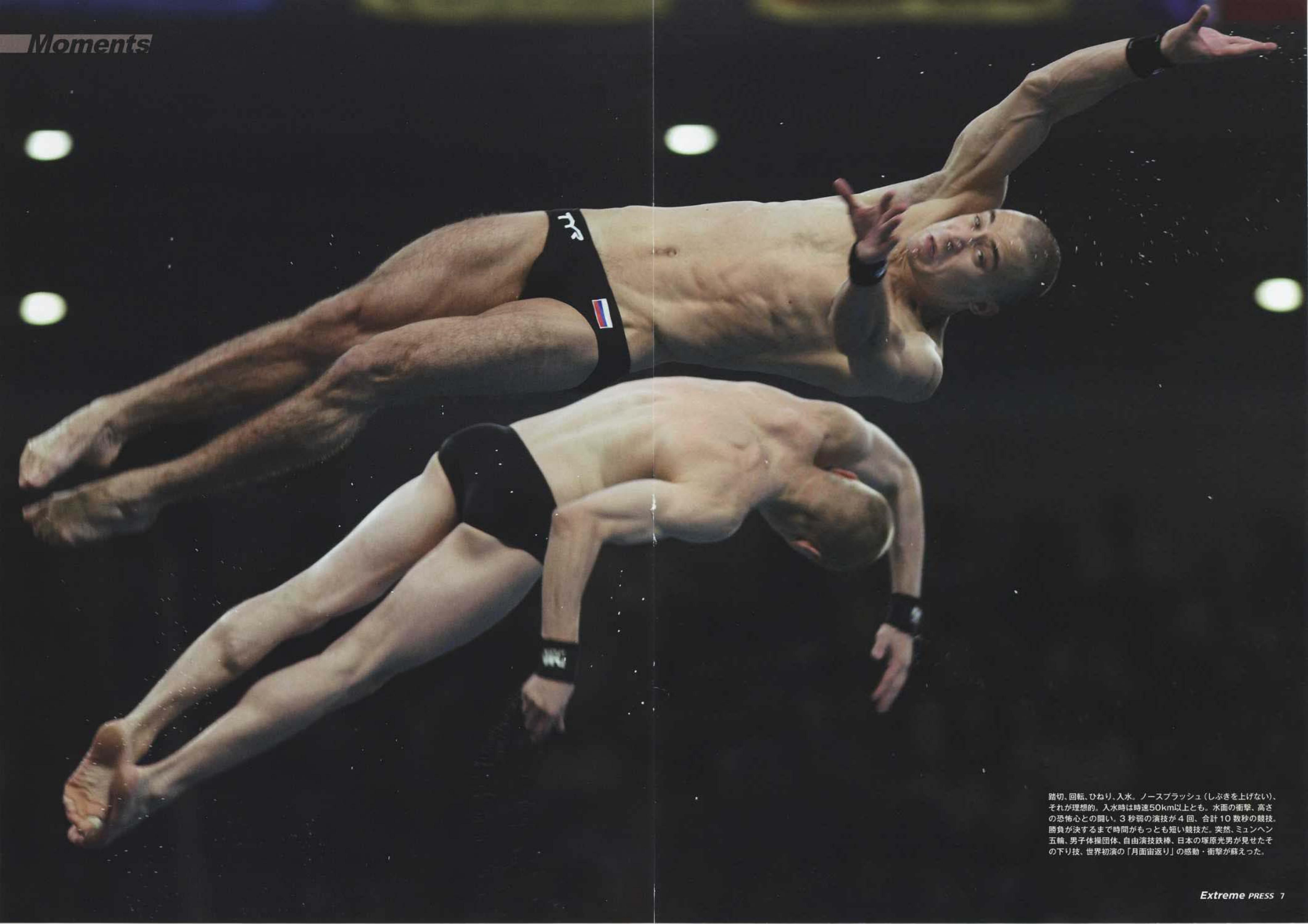
スポーツがなければ、人の心は涸ききってしまう。スポーツがあるから、人の心は潤う。笑顔が生まれる。それこそが、スポーツが持つ「究極」の意味だと思う。

戸塚 啓





暑さと湿度が体を蝋む。陽炎が立ち上り、意識は朦朧とする。そんな熱に抗うかの如く、大男たちは鉄球を空に突き上げる。ほとばしる汗、浮き立つ血管。全身の筋肉をしならせ、アスリートたちはその力を一点に集約させる。「静」から「動」への瞬間移動。鉄球が放たれる一瞬は、1/1000秒では止まらない。わずかの油断も許されない被写体。バンコクの熱と戦いながら神経を研ぎました。



踏切、回転、ひねり、入水。ノースブラッシュ（しぶきを上げない）、それが理想的。入水時は時速50km以上とも。水面の衝撃、高さの恐怖心との闘い、3秒弱の演技が4回、合計10数秒の競技。勝負が決するまで時間がもっとも短い競技だ。突然、ミュンヘン五輪、男子体操団体、自由演技鉄棒、日本の塙原光男が見せたその下り技、世界初演の「月面宙返り」の感動・衝撃が蘇えった。



水泳と自転車を終え、ランに入ってすでに限界は超えていた。だがエネルギーが底をついてもゴールはまだ先だ。身体を冷やし、外気温を軽減してくれる生命の水を浴びた瞬間、彼女は恍惚的表情を見せた。そして再び生気を取り戻し、レースの現実に覚醒していく。この炎天下で憔悴しきっていた私には、その全てが女神のように見えた。



■カメラ:Nikon D7000 ■レンズ:Nikkor 16mm/F2.8 ■撮影モード:M 1/25 F22 ISO100
■WB:晴天 ■メディア:サンディスク エクストリーム プロ SDHC UHS-Iカード

《サンディスク・エクストリームプロSDカードインプレ@ニコンD7000》 “次世代規格”的驚異的なスペック 澤田仁典



サンディスク
エクストリーム プロ SDHC UHS-I カード 32GB

スポーツ撮影の醍醐味は、ダイナミックに展開されるプレーンをコンマ1秒の瞬間に切りとることにある。スポーツ報道の現場では各媒体への速報の必要性に伴い、早くからデジタルカメラが普及した。特に近年のカメラの高画素化に伴う高画質化は、目を見張るものがある。そこにはメーカー各社の並々ならぬ開発努力が伺える。その恩恵で、よりハイオリティなアクションシーンが紙面を飾るようになった。

私は普段サッカーを中心としたプロスポーツをメインに撮影しているが、カメラはフィルムの時代から一貫してニコンを使用している。記録メディアは初代ニコンD1の頃からサンディスク社製CFカードを使用してきたが、データ喪失、画像崩壊などのトラブルは皆無に等しい。特に耐久性に優れ、低温から高温までの様々な環境下で

動作保証がなされている。これが、サンディスク社製のカードを使用し続ける大きな理由である。

今回市民マラソン撮影の折、データ記録スピード比較テストを行うため、サンディスク社の「ウルトラSDHC(最大15MB/秒100倍速)16GBカード」と「エクストリーム プロ SDHC UHS-I(最大45MB/秒300倍速)32GBカード」の2種類を試してみた。

使用するカメラはニコンD7000。現時点での唯一UHS-I規格のSDHCカードに対応している一眼レフである。ハイアマチュアまでを想定したカメラであるが、DXフォーマットの最上位モデルといっても差し支えない。また2枚のSDカードが装着できるダブルスロットは、記録残量を気にすることなく撮影に集中できる。

日曜日早朝の新宿歌舞伎町。この日本最大の歓楽街を3万人以上のランナーが駆け抜けていく。まるで巨大な河が出現したような壯観な光景である。カラフルなウェアに身を包み疾走していくランナーを、まずウルトラSDHC 16GBのカードを装着してシャッターを切る。感覚的にはほとんどタイムラグの無いレリーズと、秒6コマの軽快なシャッター音を響かせながら、データが記録されていく。

D7000ではJPEGのL-FINEで生成される写真は約8Mのデータ量があり、メモリバッファの記録可能コマ数を示すカウント数は15枚。連写

するとあっと言う間にシャッターが切れなくなってしまう。データの書き込みが終わり、次のシャッターが切れるまで約1.5秒はかかる。これでは決定的シーンにおいて連写することに躊躇してしまう。

そこで、SDカードの新規格UHS-I対応の新製品「サンディスク エクストリーム プロ SDHC UHS-I 32GBカード」に交換して撮影を再開した。すると記録可能コマ数のカウンターが全く動かない! シャッターレリーズとほとんど同等のスピードでデータが記録されていくので、ストレスを感じることはない。本当にこの書き込みスピードで大丈夫なのか?と少々不安になってしまった。これだけの高スペックな機能をもつカメラでシャッターを押しっぱなしの状態なのに、約8Mもの高画質な写真がどんどん撮れてしまうエクストリーム プロ SDHC UHS-Iカードに大きな衝撃を受けた。

次に、記録データをRAWに切り替えてトライ。記録可能コマ数のカウント数は10枚。この設定では1カット15M以上のデータ量になってしまふが、約1秒の待機でシャッターは切れる。風景やスナップなどの撮影で、よりハイオリティな写真が必要な場合RAWデータでも撮っておきたいところだが、ダブルスロットにJPEG, RAWを併用して記録することも可能だ。

D7000にはフルHD対応の動画撮影機能も付いた。昨今のビデオカメラがファイルムービー化する中で、DSLR(デジタル一眼レフ)ムービーの台頭を予感させる。カードの大容量化がますます主流となっていくのは間違いないだろう。

今回、エクストリーム プロ SDHC UHS-Iカードを使用することによって、今までデータ記録スピードで感じていたストレスは、大幅に解消した。普段、私が扱うデータはJPEGのL-FINEが多い。その場合、このカードはカメラのパフォーマンスを最高に引き出してくれる。今後もサンディスク社製の記録メディアの更なる進化に期待したい。



澤田仁典[サワダ キミノリ]
1965年広島県出身
写真業界とは全く異なる職種から脱サラ後、出版社写真部勤務を経てフリーランスとなる。スポーツ専門誌などに写真を提供する傍ら、サッカー日本代表や欧州チャンピオンズリーグなどを取材。昨年は南アフリカで念願のワールドカップ取材を果たす。日本スポーツプレス協会会員、国際スポーツプレス協会会員

SanDisk®

使っているだけで「さすが」と思われる
メモリーカードは少ない。

シェアNo.1[†]は信頼の証

サンディスク エクストリーム[®] プロ[™] SDHC[™] UHS-I カード新登場

[信頼性]

インテリジェントなデータ管理を可能にする、
業界最高水準のエラー訂正コード。

[UHSスピードクラス1]^{*2}

静止画だけでなく、フルHD、
3D動画^{*3}の撮影にも最適な、
UHSスピードクラス1に準拠。

[究極のスピード]

45MB/秒(300倍速)^{*4}の
超高速なデータ読み取り/書き込み
速度を実現し、高速連写とPCへの
迅速なデータ転送を可能に。

[耐久性]

防水、温度、衝撃、振動など過酷なテストをクリアし、
極限の状況下でも正確に動作する耐久性を実現。
また、空港のX線や磁気の影響を受けにくい、信頼の設計。^{*5}

[長寿命]

最適化されたウェアレベリング技術により、
データの保全とカードの寿命を最大化。

[テクノロジー]

サンディスク独自の
パワーコア[™]コントローラにより、
効率的かつ迅速なデータ処理が可能。

[大容量]

最大32GB(8GB/16GB/32GB)
までの大容量で、高速連写による
膨大なRAW+JPEG画像も、
フルHD動画も余裕で保存。

[絶対の自信]

絶対の自信に裏付けされた、
無期限保証^{*6}付き。



プロカメラマンの82.4%[†]から
「安心のブランド」と評価されるサンディスクから、究極のSDカードが登場。

※2010年2月当社調べ。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/leader>

サンディスクのエクストリーム プロ SDHC UHS-I カードは、
読み取り/書き込み最大45MB/秒を実現。UHS-I対応により、更なる進化を遂げた。



サンディスクはフラッシュメモリーカード
世界・国内シェアNo.1[†]ブランドです。

サンディスク

検索

www.sandisk.co.jp



超高速性能・大容量
Extreme Series
エクストリームシリーズ

スポーツ写真家たちの原点に迫る!
サンディスク・エクストリーム・チーム
スペシャルサイト公開中

サンディスクのホームページから製品情報がダウンロードできます。
www.sandisk.co.jp/catalog

*1 2009年Gartner及びBCNランキング(2010年1月~12月) *2 (1)ロゴは、HD動画を素早く撮影するためのスピードを有するUHSスピードクラス1を意味します。*3 フルHD動画(1920×1080×30fps)、HD動画、3D動画のサポートについてはご使用の機器、ファイルサイズ、解像度、圧縮率、ビットレート、撮影内容、その他の状況に依存します。*4 最大読み取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。1.5メガバイト(MB)=100万バイト、1ギガバイト(GB)=10億バイト、1倍速=150KB/秒。記載された容量の一部はフリーマット及びその他の機能に使用されます。すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。*5 機器によっては、SDHCカードに対応していない場合があります。詳細は機器のメーカーにお問い合わせください。*6 SanDisk、SanDiskロゴ、及びSanDisk Extreme、パワーコアは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDHCのマーク及びロゴはSD-3C LLCの商標です。その他の商標も、特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。*7 詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/Corporate/proof/> *8 保証内容に基づきます。ドップ及び無期限保証を認めていない地域においては30年保証。